

父市がスタートしました 開庁式を挙



開庁を祝い梅谷市長職務執行者らが銘板を除幕

平成十四年七月から協議を進めてきた養父郡四町（八鹿町・養父町・大屋町・関宮町）が合併し、四月一日に養父市が誕生しました。

一日には、養父市役所や養父・大屋・関宮の各地域局において、新たな旅立ちの開庁式が行われました。

養父市は、改正合併特例法施行後、兵庫県内で合併した第一号。人口約三万人、面積四二二・七八平方キロメートルで、県内では神戸市に次いで広い市となります。



市役所で初めて住民票の交付を受けた浜さん(右)

開庁式は、関係者約二百五十人が参加して行われ、梅谷警市長職務執行者は「養父市の発展のために、本庁舎と地域局が連携を図り、市の職員が一体となって最大の努力をしていきたい」とあいさつしました。

続いて、梅谷市長職務執行者をはじめ、八鹿町・大屋町・関宮町の町長四人が「養父市役所」と刻まれた銘板を除幕。その後、庁舎玄関でのテープカットが行われ、養父市役所がスタートしました。



市役所の前に集合した関係者

また、午前八時三十分の開庁とともに戸籍電算システムが稼動。養父市役所で初めての交付申請者、浜達人さん(高柳)に対して、梅谷市長職務執行者から住民票が交付されました。

新市まちづくり計画に定めている三つの理念「元氣と勇氣」「安心と安全」「自立と協働」のもと、いよいよ養父市政がスタートしました。これから、少子高齢化や産業の振興、住民福祉の充実、生活環境の整備といった地域が抱える課題に対応し、「響きあう心 拓く明日 但馬中央の郷」づくりが進められます。